ジャイプルの住区構成と住居類型

インド調査局作製の都市地図(1925-28年)の分析 その2

BUILDING TYPES AND BLOCK PATTERN OF JAIPUR CITY, RAJASTAN, INDIA

An analysis on city maps (1925-28) made by survey of India Part 2

布野修司*, 黄 蘭 翔**, 山根 周***, 荒 仁****, 山本直彦*****

渡辺菊真*****, 沼田典久*****

*Shuji FUNO, Lanshiang HUANG, Shu YAMANE,
Hitosi ARA, Naohiko YAMAMOTO, Kikuma WATANABE
and Norihisa NUMATA*

The purpose of this study is to consider the principles of space formation of Jaipur City which is known as so called a grid (chess board) city.

Jaipur City designed by Jai Singh II(1688-1743) is thought to had been constructed based on the Hindu idea of town, about which many scholars are still discussing. This paper discusses the matter in terms of typology of houses, formation of housing blocks and the distribution of the some components(religious facilities, well, gali(path) through the analysis of 43 City Maps(1925-28).

This paper clarifies the basic form of neighborhood units and building types. Jaipur has the prototype of urban house called Haveli which covers almost all the housing blocks. The neighborhood units called marg or rasta which belong to the same castes are formed basically along the street. We can see various sizes and patterns of subdivision of the blocks in reality though the planning systems which form the housing blocks are clear and simple.

Keywords: Jaipur, grid pattern, Hindu, block system, building types of houses, haveli

ジャイプル、グリッド・パターン、ヒンドゥー、街区体系、住居類型、ハヴェリ

1. 研究の目的と視点

本稿は、インドのラージャスタン州の州都ジャイプル Jaipur 図① *1 旧市街の構成原理について、住居類型と住区構成を明らかにすることによって考察することを目的とする *2。本研究は、チャクラヌガラ (ロンボク、インドネシア) との比較を直接の動機としており、グリッド都市の構成におけるヒンドゥー原理を明らかにすることを大きな目的としている *3。また、街区を構成する単位としての建築類型 (都市型住宅) のあり方の比較を視点としている。具体的に分析対象とするのは、1925年から1928年にかけてインド調査局によって作製された、旧市街全体をカバーする都市地図 (1/1000) 43 葉である *4。

本稿その 1 で明らかにするように、極めて詳細な都市地図によって、まず街路寸法および街区寸法を計測してみると、いくつかの計画寸法が明らかになった *5。チョウクリ Chowkri と呼ばれる街区を分ける大通り、すなわち、チャンドポール Chandopol (月) からスーラジ Suraj (日) 門へ、チャンドポール・バザール、トリポリア Tripolia・バザール、ラムガンジ Ramganj・バザール、スーラジポール・バザールがつながる東西の大通りとキシャンポール Kishanpol・バザール、ジョハリ Johari・バザール、ガート・ダルワジャ Ghatdarwaja・バザールの 3 本の南北の大通りの道路幅は 100ft. (+ 10ft. = 110ft. 両側のヴェラ

ンダ部分 5ft. づつを加える)、チョウクリを分ける街路の幅員は、大通りの幅員の 1/2 (50ft.)、1/4 (25ft.) になっている。また、チョウパル Chaupar と呼ばれる大通りが交差する市場は 350ft. 四方、門が 200ft. 四方、400ft. 四方である。

しかし、極めて整然としたグリッド・パターンと思われる街路体系と住区構成が必ずしも一貫するものではないことが明らかになった。各チョウクリは、正方形ではなく、大きさもそれぞれ異なる。もちろん、全体としてグリッド状の街区割りがなされており、特に、西部に位置するトプクハナデシュ Topkhanadesh およびプラニ・バスティ Purani Basti、王宮の南のモディクハナ Modikhana およびビシエシュアルジ Bisesharji *6 のチョウクリについては、一定の計画寸法で分割されていることがわかっている。

本稿では、以上を前提に街路によって分割される住区構成に焦点を当てたい。また、住区を構成する単位としての住居類型を明らかにしたい *7。

2 ジャイプルの住居

2-1 ハヴェリ

都市地図を見るとロの字型の中庭式住居がびっしりと並んでいる。

* 京都大学工学部建築学科 助教授・工博

** 台湾中央研究院 助研究員・工博

*** 滋賀県立大学 助手・工修

**** 三菱総合研究所 工修

***** 京都大学大学院建築学専攻 大学院生・工修

***** 京都大学大学院建築学専攻 大学院生

Assoc., Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Kyoto University, Dr. Eng.

Assistant Research Fellow, Academia Sinica, Dr. Eng.

Research Assoc., The Univ. of Shiga Prefecture, M. Eng.

Mitsubishi Research Institute, M. Eng.

Graduate Student, Dept. of Architecture, Kyoto University, M. Eng.

Graduate Student, Dept. of Architecture, Kyoto University

図① ジャイプール旧市街（1～5は表1の住区位置を示す。アルファベットはチョウクリの略号、数字は住区的位置を行列表現したものである。）

規模は大小さまざまである。大規模な住居のなかには、中庭（チョウク chowk）を複数持つものもある。大規模な中庭式住居、邸宅はハヴェリ haveli と呼ばれる（図② 図③）。

規模、中庭の数は異なるけれど、ハヴェリはいくつか共通の特徴をもっている。列挙すれば以下のようなものである。

- 中軸線を持ち、基本的に左右対称である。
- 中軸線上に入口、中庭が置かれる。
- 中庭が垂直方向、水平方向の動線の核になる。
- 奥に行くほど、上層階に行くほどプライバシーの度合いは強くなる。
- 各戸へは専用の階段が設けられることが多い。

f. プライヴァシーの確保のために、曲がりくねった動線が採られることが多い。

g. 中庭回りは屋根のみで壁は設けられない。

h. トイレ、バス、台所などは端部に設けられる

極めて単純で明快な平面形式であるが、独特の建築要素によって変化あるファサードをつくり出している。また、中庭回りの柱や開口部に様々な意匠が施されている。王宮や

図② ハヴェリ

ハワ・マハール Hawa Mahal（風の宮殿）のファサードがジャイプルの景観を特徴づける諸要素をよく示している。開口部の上部に設けられる日除け用の庇チャジャ chajjas、屋上の四隅に置かれる4本柱のチャトリ chattries、壁面から突き出したバルコニー、ジャロカ jharokhas などが印象的である。いくつかのアーチの形式、イーワーンに似たニッチ、ドーム、楕円ドームなどもラージャスタンの建築様式をつくり出している。

Devi Singhji ki Haveli

Darogaji ki Haveli

Kanota ki Haveli

Three Court Haveli on Johari Bazar

0 2 6 10 m

図③ ハヴェリの実例

JAHNABI BAZAR

CHANDANIYA KA RASTA

CHANDANIYA KA RASTA

KUNDIGARON KE BHARON JJ KA RASTA

KACHHARAON KE JUE KI GULI

MOTI SINGH BHOMIA KA RASTA

WALLI PAK JI KI KOTHI KA RASTA

[illegible]

NII-Electronic Library Service

表2 トプクハナデシュの構成

住区番号	東西 (m)	南北 (m)	住区面積 (㎡)	棟数	内部棟数	最大住戸 (戸)	最小住戸 (戸)	ガリ	井戸	聖祠
TD12	95	154	14630	74	46	840	24	2		
TD13	99	159	15741	52	27	720	54	2	1	1
TD14	97	159	15423	48	16	600	66	2		
TD15N	94	75	7050	18	5	522	45		2	1
TD15S	97	83	8051	35	16	450	36	1		3
TD16N	95	82	7790	26	13	675	63	1	1	1
TD16S	95	69	6555	32	9	340	42			
TD17	94	153	14382	44	15	551	32	1	2	2
TD22	95	70	6650	22	6	400	35	1		
TD23	98	68	6664	28	9	550	52	0	1	
TD24	95	69	6555	39	11	252	32	0		1
TD25	95	69	6555	26	5	330	100	0		
TD26	96	70	6720	23	5	450	60	0	1	
TD27	96	69	6624	34	9	420	49	0		2
TD28	131	70	9170	29	9	1050	40	0	1	2
TD32	93	69	6417	27	10	396	60	0		
TD33	97	71	6887	23	6	440	33	0		
TD34	96	70	6720	31	11	306	66	0		1
TD35	99	72	7128	30	11	529	54	1	1	2
TD36	98	71	6958	48	27	242	28	0	1	3
TD37	98	70	6860	32	10	598	32	0	2	1
TD38	132	71	9372	39	17	504	45	1	1	2
TD42	98	68	6664	30	12	600	42	1	0	0
TD43	99	70	6930	28	8	364	60	0	1	
TD44	99	70	6930	31	9	320	80	2	1	1
TD45	95	72	6840	33	6	500	36	0	0	0
TD46	96	70	6720	26	9	440	28	0	1	2
TD47	96	71	6816	33	10	288	42	0		
TD48	134	70	9380	25	3	750	81	0		
TD55	97	72	6984	32	10	400	49	0	1	2
TD65	95	72	6840	29	9	414	48	0	1	0
TD566	95	148	14060	72	38	450	33	0	1	1
TD57	96	70	6720	55	29	238	25	1	1	5
TD67	96	71	6816	40	19	275	90	1	2	4
TD58	135	69	9315	26	7	840	28	0	1	1
TD68	135	73	9855	36	11	1000	63	1	1	5
合計	3651	2979	299772	1256	473	16044	1753	18	25	43
平均	101.417	82.750	8327.000	34.889	13.139	501.222	48.694	0.500	0.694	1.194

図⑧ 住区の規模（横軸 東西軸：縦軸 南北軸）

表3 チョウクリ毎の住区構成（平均）

チョウクリ	東西幅	南北幅	面積	ガリ	井戸	聖祠
Puranibasti(35)	103.9	135.1	14135.7	0.8	1.7	0.7
Topkhana Desh(36)	101.4	82.8	8327.0	0.5	0.7	1.2
Modi Khana+						
Visheshvarji(29)	125.6	125.8	15560.2	0.6	1.1	1.5
Ghat Darwaja(17)	107.6	126.5	13780.5	0.6	1.1	1.7
Ramchandra Colony(9)	130.2	254.7	33748.9	2.9	6.1	3.1
全体平均	110.6	125.4	14157.0	0.8	1.5	1.3

()内は住区数 東西幅 南北幅はm 面積は㎡ ガリ、井戸、聖祠は数

都市地図を丹念にみると住宅規模がそろっている地区がある。計画的に開発された地区である。行政拠点としてのジャイプルには、多くの行政官や軍人が居住することになった。その行政官の俸給として与えられた土地をジャギル Jagir といい、ジャイプルに土地を所有する層をジャギルダル Jagirdar と呼んだ*11。18世紀後半には、そのジャギルダルのために住宅を建設し、年収の割を徴収する施策が採られた。トプクハナハズリを除くチョウクリに多くの住宅が建設された。こうしたマハラジャ主導の計画的住宅建設によって、都市開発のガイドラインがつけられたと考えられる。

3 住区構成

3-1 住区規模

チョウクリを分割する街路の間隔はチョウクリ毎に異なっている。また、グリッドはトプクハナデシュ、プラニ・バスティ、モディクハナ+ビシシュアルジ、ガート・ダルワジャ、ラムチャンドラ・コロニー、トプクハナハズリの順に崩れていく。都市地図からグリッドが明確な全ての住区の規模（東西、南北の幅）をプロットすると図⑧のようになる。また、チョウクリ毎に平均住区面積を示せば表3のようである。平均住区面積は1.42ha（東西110.6m、南北125.4m）であるが、かなり多様であることが分かる。ただ、最もグリッドがはっきりしているトプクハナデシュが規模について三つの住区タイプからなるようにいくつか支配的な住区規模がある。東西幅については、95～100mが54(42.9%)、110～115mが12(9.5%)、130～135mが10(7.9%)、南北幅については65～75mが40(31.7%)、105～115mが12(9.5%)、145～155mおよび205～215mがともに10(7.9%)という長さが目立つ。この分布に当初の計画寸法が反映していると考えられる*12。

3-2 マルグとラスタ

ジャイプルでは、住区のことをラスタ rasta あるいはマルグ marg という。ラスタとはヒンディー語で「通り」を意味する。また、マルグもサンスクリット語で「通り」を意味する。すなわち、ジャイプルの街区は基本的に両側町である。同じ通りに面している住居がひとつのマルグ（ラスタ）を形成するのである。

ただ、同じ通りであっても、ラスタの名は場所によって異なる。ジョウハリ・バザールから一本西（ビシシュアルジ・チョウクリの一番東）の通りを見ると、北からハヌマンジ・カ・ラスタ Hanuman ji ka Rasta、コチャワロン・カ・ラスタ Kotyahwalon ka Rasta、バラ・ガンゴロン・カ・ラスタ Bara Gangoron ka Rasta と名前が変わっていく。東西ラスタと交差する毎に名前が変わるのである。すなわち、街路で囲まれたブロックが一つの単位となっている。ラスタの名は、ヒンドゥー教の神々、職業、勲功あった人物などからとられている。

『ヴィディヤダール・ナガラ』*13は、「個々のマルグの大きさは160mx160mから110mx110mである。この規模は、典型的なマルグは40から50戸の住居で構成される。マルグが一体感を持って社会的文化的活動を行うのに適している。マルグの住民はひとつのカースト、あるいはサブ・カーストに属し、また、同じ職業に就いている。」と記述している。しかし、実際の住区の規模は上に示した通りこの記述は不正確である（表2 図⑧）。カースト集団は、ジャーティ（職業）集団であるとともに、一種の自治組織でもある。また、一般に

カースト集団は内婚集団を形成するが、サブ・カーストは外婚集団である。マルグは、従って、ひとつの巨大な家のように強い結束力をもつ。マルグは、カースト制度を基盤にすることによって強固なコミュニティの単位となっているのである。主要通り沿いのバザールとは異なり、チョウクリ内の店舗や工房を営むのはマルグの住人である。工房、店舗の種類からカーストをある程度判断できる。通りを歩いてみれば、また、チョウクリ内の店舗、工房の分布を見ると、同一職業が通り毎に固まる傾向にあるのは明白である。

近代化の流れの中で、カースト・コミュニティと一体化したマルグの特質は崩れつつある。一方、サンスクリット化*14によって逆にカースト・コミュニティの結束力が強められる傾向もある。

1881年のセンサスには、各チョウクリ毎のモハッラ Mohallas*15(マルグ)の数が記されている(表4)。1881年の地図を見るとトプクハナハズリを除いた全てのチョウクリが開発され、王宮の北サルハッドにも人々が居住し始めている。市壁内の人口は、全インドでセンサスが開始された1881年が125,785人、1891年が132,421人である。プラニ・バスティ、トプクハナデシュ、ガート・ダルワジャが人口2万人前後のチョウクリである。およそ1マルグの人口は400~500人となる。マド・シン Madho Singh III世(1880-1922)の治世は衰退の時代となる*16。1899-1900年の飢饉もあって、また、ペストやインフルエンザの流行で、市壁内の人口は1901年の132,091人から1911年の111,585人、さらに1921年の94,216人と減り続けるのである。1920年代半ばの都市地図に描かれた住区は1881年の段階とそう変わりが無いと考えていい。実際、当時まだ空き地があったチョウラ・ラスタを除くとラム・シンの死んだ1880年から大きな変化はないと考えられる*17。

3-3 ガリとゲル

都市図を見ると住区の中にガリ gali という記述がある。すなわち、ひとつの住区(マルグ、ラスタ)はいくつかのガリからなる。ガリとはヒンディー語で「路地」を意味する。袋地となる場合が多い。ガリは、ラスタと同様、通りであると同時に住区の単位(下位単位)である。街路巾はラスタより一般に狭い。主要入口が面する通りによって所属するガリが決定されている。すなわち、住区はガリによって細分割される。同じような長方形の住区でも細分割のされ方によって多様な住区が生み出されている。

図⑨は、ビシェシュアルジの北西の街区の構成を示している。袋地状のガリ、ラスタの構成がよくわかる。数戸の住戸から成るガリから10戸以上から成るガリまで様々である。都市地図に書かれたガリは図⑩のように分布している。ガリによる住区の分割パターンは一定ではない。住区の分割は状況に応じて多様になされたことがわかる。

また、都市図にはゲル gher と呼ばれるスペースがある。バンワロンカ・ゲート・チョウラ・ラスタ Banwalon ka Gate というラスタは、都市地図では、シュリ・ジャンキナート・ジ・カ・ゲル Shri Jankinath Ji Ka Gher となっている。ゲルは邸宅を意味するガル Ghar からきているという*18。路地の奥にある中庭のようなオープンスペースをいう。ゲルの回りを住居や工房、店舗が囲む形で住区を構成するのである。ゲルと同様な空間は多い。チョウクもそのひとつである。チョウクとは中庭のようなオープンスペースのことをいう。チョウクとは本来「四角」という意味で、住居の中庭がチョウクと呼ばれる。チョウク

リ、チョウパルもチョウクという言葉が変化したものである。ゲル、チョウクの分布は図⑩のようである。ゲルの名は東部に集中している。

3-4 住区と諸要素の分布

都市地図にはヒンドゥー寺院、モスクの他にヒンドゥーの寺院と聖祠(図⑫)、井戸の位置がプロットされている。グリッドが明確な街区のすべてについて、住区規模、ガリ数、井戸数、聖祠数を表2の

表4 チョウクリの人口とモハッラ数(1881年)

チョウクリ	モハッラ数	人口(1881年)	人口(1921年)
Gangapol	15	7,750	11,145
Sarhad*	9	4,174	*
Puranibasti	50	18,263	
Topkhana Desh	43	20,182	14,723
Modi Khana	8	8,822	2,650
Visheshvarji	19	13,435	7,783
Ghat Darwaja	44	22,127	15,138
Topkhana Hazuri	13	12,297	10,251
Ramchandari	20	28,729	2,545
計	221	125,785	94,216

*Sarhad チョウクリは王宮周辺からなり、9つのモハッラから成っていた。1921年には他のチョウクリに再編成された。

BAZAR, RASTA に面した住区
GOVIND RAM BHANDARI KI GALI に面した住区
BANWALON KA GATE CHOURA RASTA に面した住区
SINGHI SI KI GALI に面した住区
GAYWALON KI GALI に面した住区

0 10 20 30 40 50m

図⑨ ビシェシュアルジの北西街区

図⑦ 間口 20m 以上の住居

図⑩ ゲル、チョウク、モハッラの分布

図⑩ ガリの分布

図⑫ ヒンドゥー寺院、聖祠の分布

ようにまとめてみると、基本的な住区構成が明らかとなる。チョウクリ毎の平均を表3に示す。基本的には各住区に井戸、ヒンドゥーの聖祠が一つずつ置かれる理念があったと考えていいと思われる*19。

4 結論

①ジャイプルを構成する基本単位としての都市住居はハヴェリと呼ばれる中庭式住居である。規模は様々であるが、ロの字型の中庭式住宅とその連結によってチョウクリ（街区）は構成される。

②大規模な住居は王宮周辺に多い。規模によって居住者の階層（カースト）の分布が推察される（西部に比較的規模の小さい住居が分布する）。また、ジャギルダルのために計画的に開発された地区が明らかになり、統一的な都市景観創出に大きな役割を果たしたことが読みとれる。

③住区は東西、南北の街路によって区切られる長方形を単位とする。その規模は画一的でなく場所、チョウクリによって異なる。通りを挟む形の両側町が形成され、通りを意味するラストもしくはマルグが基本単位となる。マルグの住民はひとつのカースト、あるいはサ

ブ・カーストに属し、また、同じ職業に就いているのが当初の形態であった。カースト集団は、ジャーティ（職業）集団であるとともに、一種の自治組織でもある。マルグは、カースト制度を基盤にすることによって強固なコミュニティの単位となっていた。

④各住区は小路ガリによって再分割される。住区の下位単位もガリと呼ばれる。このガリの形成は一定のルールはない。グリッド・パターンであるが、様々な関係が積み重なる中でそれぞれの住区が形成されたと考えられる。

⑤各住区は基本要素として井戸、ヒンドゥー寺院もしくは聖祠をもつ。

1925～1928年に描かれた都市図から、1880年代の状況、さらに建設当初の姿を推測することができるのであるが、その後の変化は急激である。特に近年の人口増加は深刻なものである。都市地図と現状の比較、居住環境の変容については別稿としたい。

謝辞

ジャイプル研究についてはチャクラヌガラ研究に引き続いて応地利明教授(京都大学東南アジア研究センター)に一貫してアドヴァイスを頂いている。また、飯塚キヨ氏には多くの御教授頂いている。本研究の一部については、前田記念工学振興財団の研究助成を受けている。合わせて感謝の意を記したい。

参考文献

- [1] Ashim Kumar Roy:History of the Jaipur City, Manohar, New Delhi, 1978
- [2] J. Sarkar:A History of Jaipur, Delhi, 1984
- [3] Kautilya:Arthashastra : 上村克彦訳、『実利論』、岩波文庫
- [4] P.K.Acharya:Architecture of Manasara Vol.I-V ,Oxford University Press, 1934
- [5] Bruno Dagens:MAYAMATAM Treatise of Housing, Architecture and Iconography Vol.I-II,INDIRAGANDHINATIONALCENTER FOR THE ARTS, NEW DELHI, 1994
- [6] Ram Raz:Essay on the Architecture of the Hindus, London, 1834
- [7] E. B. Havell: Indian Architecture, John Murray, London, 1913, 1927(2nd Ed.)
- [8] B. B. Dutt:Planning in Ancient India, Calcutta & Simla, 1925
- [9] W. Kirk:Town and country planning in ancient India according to Kautilya's Arthashastra, Scottish Geographical Magazine 94, 1978
- [10] P. V. Begde: Ancient and Medieval Town Planning in India, Sagar Publications, New Delhi, 1978
- [11] 小西正捷、「インドの歴史的都市ージャイプルの都市プランとその特質」、講座考古地理学第3巻『歴史的都市』(藤岡謙二郎編)、学生社、1985年
- [12] 飯塚キヨ:「都市形態の研究ーインドにおける文化変化と都市のかたち」、『S D』臨時増刊、1969年11月
- [13] K. Jain:Morphostructure of Planned City Jaipur, A+U, August 1978
- [14] K. Jain and M. Jain:Indian City in the Arid West, AADI Centre, India, 1994
- [15] S.B.Upadhyay:Urban Planning, Printwell, Jaipur,India,1992
- [16] JDA:Vidyadhar Nagar,Jaipur, 1994
- [17] N. Rajbanshi:An Enquiry into the Science of Traditional Architecture-A Case Study of Jaipur, Indian Institute of Technology, Powai, Bombay, 1993
- [18] A. Nilsson:Jaipur in the Sign of Leo, Magasin Tessin, 1987
- [19] T. Ohji:The "Ideal" Hindu City of Ancient India as Described in the Arthashastra and the Urban Planning of Jaipur, East Asian Cultural Studies Vol XXIX, Nos.1-4, March 1990
- [20] Aman Nath:Jaipur,India Book House PVT LTD,1993
- [21] Bijit Ghosh:The Palace Complex of Jaipur, "Urban and Rural Planning Thought", Volume VIII No.3-4, School of Planning and Architecture, New Delhi,Jul-Dec, 1965

註

- *1 ジャイプルは、マハラジャ(藩王)であり、すぐれた政治家であり武人であるとともに、天文学者・数学者でもあったジャイ・シンJai Singh II世(1688-1743)によって計画され、1727年に着工された。18世紀前半にはその骨格がつくられたとされる。主任建築家としてベンガル出身のブラーフマン(パラモン)、ヴィディヤダールVidhyadharの名が知られている。
- *2 極めて整然とした格子状の街路(グリッド)パターンをしたジャイプルは、インドでも珍しい計画都市として広く知られている。その計画理念、構成原理をめぐっては諸説があるが、基本的にヒンドゥー的な都市理念に基づいて計画されたと考えられている。
- *3 本研究は、チャクラヌガラというバリのヒンドゥー王国カランガセムによって一八世紀前半に建設された植民都市をいわば発見したことを発端としている。(チャクラヌガラ(インドネシア・ロンボク島)の街区構成:チャクラヌガラ的空間構成に関する研究その1、日本建築学会計画系論文集、第491号、1997年1月、p.135-139。およびチャクラヌガラ(インドネシア・ロンボク島)の祭祀組織と住民組織:チャクラヌガラ的空間構成に関する研究その2、日本建築学会計画系論文集、第503号、1998年1月)。ジャイプルは、チャクラヌガラが建設された同じ一八世紀前半に建設されたヒンドゥー都市である。ヒンドゥー文明の東西端で都市建設が試みられたことは実に興味深いことである。アジアの全域を見渡すと、グリッド都市が見られる地域とそうでない地域がある。「都城」について見ると、王権を根拠づける思想、コスモロジーが具体的な都市のプランに極めて明快に投影されるケースとそうでないケースがある。また、都市の理念型として超越的なモデルが存在し、そのメタファーとして現実の都市形態が考えられる場合と、実践的、機能的な論理が支配的な場合がある。さらに、都城の形態を規定する思想や理念は、その文明の中心より、周辺地域

において、より理念的、理想的に具体化され表現される傾向が強い。コスモロジーの表象としての都城思想をもつ世界(A)ともたない世界(B)を分けると、中国とインドがA、イスラーム世界がBに属する。AとBの境界は、ほぼインド亜大陸ータリム盆地ーモンゴルの各西限を結ぶ線にある。アジアの森林地帯は、冷湿帯を除いて、すべてAにおさまる。

グリッド都市をどう規定するかの問題はあるが、方各(矩形)状の都市とグリッド・パターンの街区構成は、以上のように中国文明圏とヒンドゥー文明圏に顕著である。イスラームの都市構成原理との比較については、ラホール、アーメダバード、デリーについて調査を進めつつあり、別稿としたい。

*4 都市地図群は、Jaipur City and Environ と題され、1925-26年(一般チョウクリ A群)と1927-28年(王宮周辺 B群)の二群に分けられる。A群は、ブロック番号がふられた城壁内26枚、城壁外3枚からなる。また、B群はA~Nの14枚からなる。縮尺は1/1000で統一されており、全てにサーベイ・オブ・インディア監督官ジョス・ムティ Jos Mutti のサインがある。測定の単位はフィートが用いられている。また、都市地図には、建築物の外形とともに階数が記載されている。また、宗教施設、路上のチャイティア(祠)、井戸などがプロットされている。

*5 ジャイプルの街路体系と街区構成ーインド調査局作製の都市地図(1925-28年)の分析 その1、日本建築学会計画系論文集、第499号、1997年9月、p.113-119

*6 Ashim Kumar Roy(参考文献[1])は Visheshvarji と表記しているが Biseswarji とするものもある。都市地図は Biseswarji としている。現地発音に近いと思われる「ビシェシュアルジ」に表記を統一する。

*7 現地調査は、1994年3月10日~4月2日(布野修司、山根周、青井哲人、荒仁)および1996年9月19日~10月3日(布野修司、山本直彦、沼田典久、長村英俊、黄蘭翔)に行った。

*8 ラム・シン Ram Singh の治世(1835-1880年)の時代に建物がピンク色に塗られた。

*9 Sanskriti Ramat,"Architecture of the walled city of Jaipur", Gov. College of Architecture, Lucknow, 1993

*10 文献[3]

*11 文献[1] p58-59

*12 本研究その1で明らかにしたように、350ft×250ft(106.7m×76.2m)が基準区画になっている。また東西方向は当初500ft+350ft×6+500ft=3100ftと割られていたと考えられる。

*13 文献[16]

*14 あるカーストが、自分たちのカーストの位置を高めようとする。また、政治組織としてのカーストの活動もカーストの結束力をつとめている。

*15 イスラーム社会のコミュニティの単位。長をモハッラダールという。

*16 文献[1] Chapter V The Period of Stagnation 1880-1922

*17 各チョウクリのマルグの数を見ると、およそ、街区の数に一致していることがわかる。プラニ・バスティとトプクハナデシュは、当初8x8のブロック、ガート・ダルワジャは6x6に分割する構想があり、各街区を住区単位としていたことが推測できる。

*18 ジャイプル、マラビア大学ラジバンシー教授のご教授による。

*19 住区の諸要素の現在の分布についての分析は別稿としたい。

(1997年9月10日原稿受理、1998年1月16日採用決定)